読書ナビ 「ニュースの社会学」への招待

第37回

社会学部教授・黄　盛彬

1. H. キャントリル著　斎藤耕二、菊池章夫訳 『火星からの侵入―パニックの社会心理学』（川島書店　1971年）
2. G. タックマン著　鶴木眞、櫻内篤子訳『ニュース社会学』（三嶺書房　1991年）
3. D. ブーアスティン著　星野郁美、後藤和彦訳 『幻影の時代―マスコミが製造する事実』（東京創元社　1964年）
4. 小林直毅編『「水俣」の言説と表象』（藤原書店　2007年）
5. 伊藤守編『テレビニュースの社会学』（世界思想社　2006年）
6. W. リップマン著　掛川トミ子訳『世論（上・下）』（岩波書店　1987年）
7. 佐藤卓己著『輿論と世論―日本的民意の系譜学』（新潮社　2008年）
8. E.W. サイード著　浅井信雄、佐藤成文訳 『イスラム報道―ニュースはいかにつくられるか』（みすず書房　1986年）
9. E.W. サイード著　今沢紀子訳　『オリエンタリズム（上・下）』（平凡社　1993年）
10. 姜尚中著『オリエンタリズムの彼方へ』（岩波書店　2004年）

私の専門は「ニュースの社会学」である。今年は、東日本大震災・福島第一原発の事故関連のニュースに関する研究に取り組んでいる。災害は、戦争とともに、ニュースにとっても、ニュース研究にとっても最も重要度が高い。初期の研究事例として挙げられるのが、H. キャントリル著『火星からの侵入―パニックの社会心理学』で、全米で大パニックを起こしたラジオドラマの影響を分析した研究書である。

原発事故で、政府は「パニックを恐れて」、「不確かな」情報の公開を渋ったという。その一方で、リスクを回避する人びとの行動による影響を「風評被害」と命名する。危機的瞬間こそ、政府の「発表」に対しても、マスメディアの「報道」に対しても、クリティカルな視点が大事になる。

ニュースが「事実の客観的記述」ではなく、「社会学的構成物」であるという視点を取り入れた先駆的な業績として、G. タックマン著『ニュース社会学』がある。ニュースの構成にとって、マスメディアの組織や記者の持つ人間関係や、組織と記者と取材対象の三者関係がどのように作用するかを分析した。同じく「つくられるニュース」という視点からの本として、D. ブーアスティン著『幻影の時代―マスコミが製造する事実』がある。近年の優れた事例分析としては、小林直毅編『「水俣」の言説と表象』を推薦したい。また、多様なモードから作られたテレビのニュース番組の分析の枠組みを提示した本として、伊藤守編『テレビニュースの社会学』がある。

世論研究の先駆としては、W. リップマン著『世論（上・下）』があるが、翻訳がやや古めかしいので、英語の原書を参照しながら読むことを勧めたい。日本社会の世論の形成過程に目を向ければ、佐藤卓己著『輿論と世論―日本的民意の系譜学』がある。“公的意見＝輿論”と“世間の空間＝世論”という弁別法を示し、戦後の日本社会の世論を分析した好著である。

国際ニュースに目を向ければ、E.W. サイード、『イスラム報道―ニュースはいかにつくられるか』が重要である。ニュース論からは逸れるが、サイードの『オリエンタリズム（上・下）』、姜尚中著『オリエンタリズムの彼方へ』も、現代のニュースと世論の研究に重要な視点を提供してくれるはずである。

INFORMATION 立教大学図書館でブログを始めました

これまでも図書館ウェブサイト上でニュースをお知らせしてきましたが、このたび図書館ブログを始めました。
ブログでは、ニュースでお伝えしきれなかった情報を発信していきたいと考えています。どうぞよろしくお願いします。

図書館ブログ

図書館員による活動の紹介などを掲載しています

Your Library　第17号（通号76）　発行日　2011年12月21日

編　集　井川　充雄（図書館副館長）
発行人　石川　巧（図書館長）
発　行　立教大学図書館

http://www.rikkyo.ac.jp/research/library/
連絡先　TEL　03-3985-2630

立教大学図書館モバイルメニュー

携帯電話から
1 蔵書検索
2 開館スケジュール
3 図書館設置PC利用状況の確認
ができます。

立教大学図書館だより
ISSN 1883-1303

YOUR LIBRARY

WINTER ISSUE　2011.12.21　no. 17

TAKE FREE

図書館ワークショップ

貴重書見学ツアー＆ブックハンティングを開催しました

読書ナビ
黄　盛彬教授
（社会学部）

図書館
ワークショップ

貴重書見学ツアー&ブックハンティングを開催しました

このたび図書館では新たな試みとして、本にまつわる二つのワークショップを開催しました。第一弾は、10月22日(土)に『貴重書見学ツアー』、第二弾として、11月1日(火)に『ブックハンティング』を行いました。

貴重書見学ツアー

普段は入ることのできない新座キャンパスの保存書庫に入庫し、講師の解説を聞きながら、大学が所蔵する貴重書を直接見て、触れるという体験ツアーです。今回は、立教大学で所蔵する多くの資料の中でも、江戸川乱歩の蔵書印が押された江戸期の和装本など、大変珍しいものを見ました。

書庫の中を見学中

ツアーの最後には、実際に貴重な本に触れました。

ミニ貴重書見学ツアー ～乱歩と立教～

江戸川乱歩は1934年から1965年に71歳で死去するまで、立教大学池袋キャンパスに隣接する住宅に住んでいました。乱歩は推理小説家として有名ですが、近世資料の収集家としても知られています。立教大学は、2002年に旧江戸川乱歩邸と乱歩旧蔵図書資料・乱歩関係図書資料をご遺族(平井隆太郎　元立教大学教授)のご厚意により譲り受けました。
新座保存書庫で所蔵している井原西鶴刊「好色一代男」も、そのひとつです。江戸川乱歩自身が大切にしていたもので、乱歩の蔵書印(左から二番目)が押されています。

参考文献
立教大学図書館編『江戸川乱歩旧蔵江戸文学作品展図録』(2005　立教大学図書館)

●参加者の感想より

今回、滅多に入ることができない新座保存書庫に入ることが出来て良かったです。普段あまり文学には触れていないのですが、様々な書籍の歴史などを知れて本当におもしろかったです。また、江戸時代の本に触れたり、貴重な体験をすることが出来て良かったです。

実際に本に触れると思っていなかったので、大変貴重な体験をさせていただきました。本物の羊皮紙や古い和書の触感がとても興味深かったです。新聞や、個人コレクションなど、収蔵品の幅も広くて一度では味わいつくせないなと思いました。

ブックハンティング

学生が自分でテーマを考え、3冊の本を選ぶワークショップです。選書するだけではなく3冊に添えるポップを作成することによって本で自分を表現するという、いつもとは異なる本との出会いを体験しました。選定された本のうち、図書館で所蔵していないものは新たに購入し、蔵書としました。今回は、会場としてジュンク堂書店さんにご協力いただきました。

1 まずは60分間で選書します。自分でテーマを1つ決めて、本を3冊選びます。

2 図書館員と相談しながら、選んだ本が図書館の蔵書にふさわしいかどうかを確認します。

3 テーマと選んだ3冊についてポップを1枚作成します。

4 作成したポップと3冊の本を手に3分間のプレゼンに挑みます。

5 最後はフリートークタイムです。プレゼンが終わった解放感も手伝って、感想や疑問を交換し合う和やかな時間となりました。

参加者全員がこのようなワークショップは初体験とのことでしたが、表紙の通り素敵なポップができあがりました。ポップと、選定された3冊の本は、立教大学図書館ウェブサイトで紹介しています。

●参加者の感想より

とにかく面白かったです。新しい本との出会い、同じ大学でも知らなかった人との出会い、今まで思いつかないようなものの考え方。いろんなものに触れることが出来て、刺激的な時間をすごせました。

最初はどんなことするのかわからなくて、しかも知り合いもいなかったので不安でしたが、あっという間の時間を過ごさせてもらいました。色々な人と本を知り合えたことがなによりも良かったかなと思います。また、ポップも人それぞれで工夫があって、発表の仕方なども勉強になりました。